



長崎県島原病院だより

こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2015 秋号



島原城と新能

地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。

Contents

- ・平成 27 年度 第 10 回集団災害訓練報告
10 年目の集団災害訓練を振り返って…………… 2・3
- ・長崎救急医学会開催 / 長崎県看護学会座長賞受賞
市民公開講座開催…………… 4
- ・連携医療機関のご紹介
前田医院 / 口之津病院…………… 5
- ・部門 Topics 生化学検査の機械が新しくなりました
検査科 浅田 理美…………… 6
- ・部門 Topics 小児リハビリテーションについて
リハビリテーション科 坂本 紘…………… 7
- ・島原病院健康フェスタ開催 /
さろん・いさんて様より絵画作品提供…………… 8

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。

集団災害訓練

2015.10.5



医師、看護師、学生ら150人以上が参加し、災害発生を想定した第10回集団災害訓練実施。他施設DMAT、市内の病院も参加！

10年目の集団災害訓練を振り返って

災害対策部会長 東 尚

10年目の集団災害訓練

近年は大規模災害が、頻回に起きている現状があります。当院は、普賢岳噴火から災害時の対応を学び、平成8年には災害拠点病院(地域医療災害センター)の指定を受け、平成18年から集団災害訓練を開始しました。平成19年より長崎県立大学シーボルト校の看護学科の災害看護学実習を受け入れ、学生さんを患者役・評価役として協力を得て、島原消防署とも連携をとり集団災害訓練を実施してきました。



集団災害訓練を開始し、今年度で10年目となります。平成25年度からは、各部署の代表者とDMATメンバーと共に集団災害対策部会を立ち上げ、集団災害対応マニュアルの見直しや、いろいろな場面を想定した訓練の充実と浸透を図ってきました。平成25年度は、タンクローリーの事故で、通行人がアンモニアをかぶり汚染した想定で、除染方法を追加し実施しました。有機物汚染時の対応は、何処でどのようにするかなど場面を想定しての訓練を実施していきました。近年の災害対策は、まず自部署の安全が第一優先として考えられてきています。そこで平成26年度からは、大地震発生の設定として、自部署の被災状況の確認をする事を織り込んだ訓練を実施しました。平成27年度は、院内のみにとどまらず、近隣病院の協力や、他院のDMATの応援を依頼し総勢150人を超える大掛かりな訓練となり、本番に近い訓練が実施できました。また、災害の震度6以上時は、職員は病院へ自主参集としていますが、院内連絡網による連絡が確実に行えるのか、病院の当直医から全職員までの連絡体制を構築し、休日にシミュレーションを実施しました。最近は、IT化も進み、一斉メールでの発信を検討しています。また、BCP※に沿った災害マニュアルを構築し、患者・職員の食

糧の備蓄の拡大、防護具の定数化、備品・設備等の充足も図りました。年々、回数を重ねるたびに、「ここは、どうしたらいいの。こうした方がいいのではないか。」など質問や意見があり、職員の意識も高まっています。その度に、シナリオを変更や資料を準備するなど大変さはありますが、職員の意識が向上したことは大変喜ばしいことと考えます。さらに今回は、院内のみにとどまらず地域への広がりを進めることができました。企画や準備に苦労もありますが、色々な場面を想定した訓練ができ、災害訓練の効果や期待は大きいと思われます。「一人でも多くの傷病者を助けるために」をモットーとし、災害医療の7原則（指揮命令、安全確認、情報管理、随時評価、トリアージ、初期治療、患者搬送）も今回の訓練で確認できました。災害は突然やってくるため、日ごろから危機管理意識を持ち、各個人および組織（病院）レベルで準備しておくことが大切です。

今後はさらに地域へ広げ、合同の訓練を行い災害拠点病院としての役割が果たせるよう取り組んでいきたいと思えます。

※BCPとは：Business Continuity Planの略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたもの。危機発生の際、重要業務への影響を最小限に抑え、仮に中断しても可及的速やかに復旧・再開できるようにあらかじめ策定しておく行動計画のことです。

島原DMATとしての活動を行って

以前は現場に派遣され現場での医療活動を行う事が重要視されたDMATですが、近年は病院機能を維持・強化する事が重要視されてきました。本年度の災害訓練で、島原DMATは災害対策本部に加わり、災害時の対応と病院・傷病者及び入院患者の安全の確保に努めました。災害対策本部は地味な所と思われるがちですが、この中枢が崩壊すると病院・患者・スタッフの全てが危機にさらされます。また今回長崎県初である、院外DMATを招致し合同訓練を実施し、連携の強化を行いました。今後も島原半島唯一の災害拠点病院として尽力していきたいと思えます。



長崎県島原病院 DMAT隊員 金子 龍太郎



長崎県島原病院 救急看護認定看護師 木村 美智留
平成27年度災害訓練時フロアマネージャー担当

フロアマネージャーを経験して

今回の災害訓練で1階のフロアマネージャーを務めさせていただきました。役割としては、各ブースリーダーと連絡を取りながらのブースの適正な運用、人員配置の統括、物品の把握・配給を基本とし活動しました。初めての試みであり、どのような経過になるかは未知数でしたが、実際は各ブースの方がしっかりと状況報告や問題提起をしていただき、1階フロアを把握することができたと思います。フロアマネージャーとして現場から一歩引いた状況で活動を評価することができたため、来年度への課題も明確になったと思います。誰もがフロアマネージャーの役割を担えるようにしていくべきだと考えています。



救急車よりベッドへ移動。患者の状況が再確認される



患者の重症度ごとに各治療部所へ搬送される



各治療部所の医師が診察、検査等の指示を行う

長崎救急医学会開催



第23回長崎県救急医学会が9月5日(土)島原病院別館1階研修ホールにて開催されました。今回は「地域の連携で救急医療を支える」をテーマとし、病院前救護、救急外来、集中治療の流れはもとより、地域連携の在り方に

ついては着目し、救急医療に携わる職種の方々の活発な演題が発表され、幅広い内容でそれぞれの地域に密着した有意義な討論が行われました。多くの御参加ありがとうございました。



ICUの小山亜沙美さんが長崎県看護学会にて座長賞を受賞しました。



今回は座長賞を頂いてとてもうれしいです。研究メンバーの谷口さん、林田さんをはじめ多くの方の協力があったからこそ本当に感謝しています。今後も患者さんの安全・安楽を考えた看護を提供できるように日々努力していきたいです。ありがとうございました。

長崎県看護学会にて座長賞受賞

市民公開講座開催

脳卒中市民公開講座

テーマ：地域で脳卒中を支えよう



ハマユリックスホールで開催された脳卒中市民公開講座。今年度で5回目の開催になります。小浜消防署、公立新小浜病院、ケアプランセンターやまぼうしより講師をお招きし、他連携施設のご協力のもと開催され120名の方のご参加をいただきました。脳卒中の救急対応・治療・リハビリ・介護について講演していただいた先生方のお話は高い関心を持って聞いていただけたようです。

アンケートでは「いろいろな角度から脳卒中を勉強することができた。」「いざというときに大変役にたつと思った。本日参加してよかった。」「大変わかりやすく地域で支える、連携を取る意味がよくわかった。相談できるところがあることもわかって安心した。」などご意見をいただくことができました。今後とも島原半島の皆様に脳卒中の最新情報を提供し、早期受診や予防の大切さ、地域医療の役割分担と連携の重要性を理解していただけるよう取り組んでまいります。もし脳卒中になっても様々な職種医療と介護が連携していくことを提供していきます。



がん市民公開講座

テーマ：乳がん～もう一度見なおそう考えよう～



今年度で4回目のがん市民公開講座は有明のグリーンウェーブで開催されました。105名の方のご参加を頂き、乳がんをテーマに外科医師、放射線医師、島原市保健師、あけぼの会ながさき支部(患者会)など職種により前半の講演が行われ、後半は院長の特別講演で島原病院の乳がん診療の歩みが講演されました。

来場された皆様は熱心に講演を聞かれ「初めて参加しましたが大変勉強になりよかった。」「患者さんの立場からの話もあり、貴重な機会でした。若い方にも参加してほしいです。」「検診の大切さは日々思っています。必ず毎年検診を受けなければと思いました。」などの感想を持たれ、最新の乳がんの検診及び治療に関する情報提供ができ重要性を理解していただける機会になりました。

後半は松尾繁年院長の島原病院のこれまでの歩みと共に院長の体験も含めた乳がん治療への思いを聞く講演となりました。今後もがん拠点病院として皆様へ継続して情報提供を行ってまいります。



9月12日(土)に脳卒中市民公開講座、10月24日(土)にがん市民公開講座が行われました。毎年多くの方に御参加いただき市民公開講座を開催しております。

連携医療機関のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！
いつもご協力いただいている地域の医療機関をご紹介します。

前田 医院

大仁田 亜紀 先生 (皮膚科・美容皮膚科)

島原市新田町 587 番地 2 ☎0957-62-2188

命に直結する腎・泌尿器科、透析治療からQOL向上に繋がる美容皮膚科診療まで

当院は昭和45年、初代院長 故 前田兼成が皮・泌尿器科として開院致しました。昭和50年から人工透析医療に早期に取り組み、地域医療に貢献すべく研鑽を重ねて参りました。昭和57年に初代院長他界後は長崎大学泌尿器科の医局の先生方をはじめ、様々な方々に助けられ大変お世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。

現在では泌尿器科、長時間透析を主体に、平成25年11月には皮膚科・美容皮膚科を新設し、また新たな形で地域医療に貢献すべく奮闘しております。

島原病院の先生方には患者様の急変時や他科疾患、救急対応などでいつも大変お世話になっております。また、皮膚科においては必要時往診のご依頼もいただき、何かお役に立てることがありましたら精一杯頑張る所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



医療法人弘池会 口之津病院

理事長 池永 弘二 先生 院長 池永 剛 先生

南島原市口之津町丁 5615 ☎0957-86-3055

地域の皆さまから愛される病院を目指して

当院は、平成元年11月に開院いたしました。以来四半世紀にわたって療養型病床を中心として、亜急性期から慢性期の治療を主に行い地域の皆さまから愛される病院になるべく、日々の業務に努めてきました。

法人の理念として

- 一、地域における役割と責務の遂行に努めます。
- 一、ホスピタリティとアメニティを実現します。
- 一、プロの心と技術を持って協働で職務に努めます。

をかかげ、努力してまいりました。

病院のスタッフは、適切な医療を提供するため常に勉強し、昼夜を問わず働いております。当法人は病院以外に、介護老人保健施設・グループホームなどを併設し、高齢者に総合的なサービスを提供しています。

島原病院の皆さまには日頃より御高配いただき誠に有り難うございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



生化学検査の機械が新しくなりました

検査科 臨床検査技師 浅田 理美

当院で診療を受けられるすべての患者さんの血液を、検査室で測定するため、色々な機械を使って検査しています。今年の3月半ばに生化学項目の検査を行う機械が新しくなりました。

新しい生化学検査機械の特徴

新しい機械では、従来機より結果の再現性がよく検査結果がより正確に測定できるようになりました。さらに手動で行っていた処理の自動化が進んでいます。従来よりも迅速に検査結果を医師に提供できるようになり、患者さんの待ち時間の軽減につながっていると思います。

生化学検査でわかること

生化学血液検査とは、採血した血液を遠心分離器にかけて、有形成分（赤血球、白血球、血小板など）と無形成分（血清）とに分離し、血清中の物質を化学的に分析する検査です。

生化学検査では、調べる臓器によって検査項目が違ってきます。例えば、肝臓ではAST、ALT、ALP、 γ -GTPなどが大事で、腎臓では尿素窒素、クレアチニン、尿酸が検査されます。また炎症の状態や栄養状態、服用されているお薬の血液中の濃度を調べることもあります。これらの検査を組み合わせることによって、医師が病気の状態を知ることができます。



正確な検査をいつもお届けするために

常に正確な検査結果をお届けするため、毎日2回の院内精度管理に加え、外部の精度管理にも参加しています。新型機械の導入に伴い、これまで以上に正確で質の良い検査結果を提供できるよう努めていきます。

●長崎県臨床検査精度管理で表彰されました

小児リハビリテーションについて

リハビリテーション科 言語聴覚士 坂本 ひろし 紘

昭和41年から小児リハビリテーションを実施しています

昭和41年長崎県立島原温泉病院開院時に、長崎県立整肢療育園島原分院（100床）を併設され島原半島における療育を担っていました。その後、地域療育の推進により入院施設が廃止となり昭和57年整肢療育園通園部となりました。島原病院が県立から企業団へ移行したことに伴い通園部の福祉的機能を島原市に移管し、医療的リハビリテーションを島原病院が引き継ぎ現在に至ります。



当院では入院と外来で小児リハビリテーションを行っています

現在120名程度のこどもさんが外来リハビリテーションを利用されています。島原半島内で小児のリハビリテーションを実施している施設が少なく、ほとんどが当院へ紹介となっているのが現状です。そのため地域の多くのリハビリ施設と共同して小児リハビリテーションを行っていくことが課題です。

小児リハビリテーションの対象は成長や発達に支援が必要なこどもさんです

より充実した日常生活を送るため、成長・発達の促進やそれに伴って生じてくる問題を解決するために支援が必要なこどもであり、脳性麻痺など身体機能に不自由さのあるこども、運動発達に課題があるこども、自閉症や落ち着きのないこども、知的発達がゆっくりのこどもなどがリハビリテーションの対象となります。当院では、上記のようなこどもたちに対して理学療法・作業療法・言語聴覚療法によるリハビリテーションを実施しています。



小児リハビリテーションの課題と展望

対象児は年々増加しております。地域のリハビリ施設と共同カンファランスや研修会等を実施し連携を取りながら保育園や幼稚園、学校・サービス等の機関とこどもさんが楽しい生活をおくれるようにしていきたいと考えております。

今後も1歳半健診後など乳幼児の早い時期からの支援を主体に実施していきたいと考えています。

島原病院 健康フェスタ2015 開催しました



歯科 松田 威先生のセミナー



長崎県立島原農業高校生の和太鼓演奏



模型を使って乳がん自己検診体験をしてみよう



お腹を切らずに手術をしよう
子供お医者さん体験



外科の先生から糸結びを教えてもらおう
子供お医者さん体験



救急隊員さんに心肺蘇生法を教えてもらおう

平成27年10月31日(土)秋晴れの中、島原病院健康フェスタ2015を開催いたしました。今年で10回目を迎え、南高歯科医師会様、NPO 島原様、島原農業高校様など多数の後援、協賛を頂きました。今年は、「模型を使った乳がん自己検診」を若いお母さん方にも体験して頂きました。好評の「子供お医者さん・薬剤師さん体験」にも多くのお子様をお迎えし楽しんで頂きました。今後とも地域に信頼され親しまれる病院を目指してまいります。

さろん・いさんて様より絵画作品の提供いただきました



平成27年10月20日(火)、「島原文化連盟美術グループ さろん・いさんて」(代表 松本 守 様)会員様より絵画作品の提供がありました。島原で活動されており今年で活動69年目の歴史ある絵画さろんです。絵画の提供を頂くのは、今年で4回目となります。会員は35名、毎年展示会を2回開催されているそうです。和気あいあいと楽しそうな様子が絵画からも伝わってきます。今年も力作ぞろいで素晴らしい作品ばかりです。病院でゆっくり美術鑑賞ができます。ぜひ、じっくりご鑑賞ください。



外来受診時間

午前8:45～午前11:00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
平成26年4月7日より小児科再開しております。
※詳しくはホームページをご覧ください。

休診日

土・日・祝日

年末年始(12月29～1月3日)

発行／長崎県島原病院

(広報委員会事務局：地域医療支援センター)

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町 7895 番地
TEL 0957-63-1145 (代表) 内線 116 FAX 0957-63-6544
URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>